

2019年度 よつば学府 中学部 城山中学校

I 学校経営構想

1 学校経営方針

『めざす学府像』にある「子供が、地域に誇りを持ち、夢や志をもてる施設分離型一貫校（よつば学府）」を創造するために、「連携」から「一貫」への学府運営スローガンのもと、新学習指導要領の完全実施を踏まえた新たなステージへ飛躍する準備をし、学区に住む子供たちを将来にわたって幸せにすることができる「地域に根ざした学校、地域とともにある学府・学校づくり」を計画的に推進する。

2 学校教育目標 = 学府教育目標

郷土を愛し、志を持ち、自己実現をめざす生徒

～ よりよい社会と幸福な人生を自ら切り拓く“未来の創り手”の育成に向けて～

3 めざす子どもの姿(生徒像)【重点目標】(小学部でも中学部でも願う姿)

【知育】 **目標を持ち、自己・他者・対象と対話し、学びを深める子供**

☆他の生徒や先生とかかわり合いをもち、

学びを深めていると考える生徒の割合 → 75%

【徳育】 **自他を尊重する心を持ち、正しく判断し、よりよい自分を発揮する子供**

☆ルールを守り、協力する雰囲気がある学校

(学級)であると考えられる生徒の割合 → 82%

【体育】 **しなやかな心を持ち、心身を鍛え合い、困難に挑戦する子供**

☆部活や社会体育、クラブチーム等に参加したり、個人でトレーニングをしたりして自分の心身を鍛えていると答える生徒の割合 → 87%

【生命】 **平和を愛し、かけがえのない命を大切にし、精一杯生きる子供**

☆「自分にはよいところがある」と答える生徒の割合 → 75%

【地域】 **郷土に学び、自ら考え、地域社会によりよく関わる子供**

☆機会があれば、チャレンジ活動(地域貢献活動)に

参加したいと答える生徒の割合 → 70%

4 学校経営目標 (今年度重点的に取り組むこと)

小学校とのつながりからの「再構築」と「発信」による
「社会に開かれた教育課程」の組織的な土台づくり

- (1) 教育活動や指導等における、小学部とのつながりの再構築
- (2) 深い子供理解から、とことん寄り添う組織的な生徒指導の推進
- (3) 学習評価における研修と評価結果に関する組織的な対応
- (4) 「チーム学校」実現のためのコミュニティ・スクール及びよつばプロジェクトの機能充実とPTA活動の活性化

(5) 日本型学校教育の良さを意識した中での働き方改革の推進

5 学校運営方針（経営目標を受けての具体的な取り組み）

- (1) 教育活動や指導等を「小学部とのつながり」で見直し、職員会議等での提案に小学部とのつながりを明記するなど、小学部教育を理解した上で中学部の教育課程を再構築する。
- (2) よつば学府教育の3つの機軸「信頼を築く対話」「学びを深める対話」「地域とつながる対話」を推進する中で、レジリエンスやコミュ・トレ等の共通実践の充実を図り、施設分離型一貫校構想の具現化を図る。。
- (3) 保健室登校の受け入れ及びサポート教室運営改善等による組織的な教育支援の充実を図る。
- (4) 小学部との生徒指導の連絡を密にした特別支援教育の充実と生徒個々の悩みを受け入れ寄り添う学年体制の構築を全学年で図る。
- (5) 「主体的、対話的な深い学び」に迫る、単元・題材のデザイン力を高める校内研修と考え議論する道徳の実践を推進する。
- (6) 各教科における指導と評価の一体化を進め、評価・評定に関する説明責任を果たす体制を構築する。
- (7) 地域教育力を生かした「よつばプロジェクト」への全職員の理解を深め、4部会による地域と連携・協働した教育活動と教育環境づくりを推進する。
- (8) P T A活動の小学校から引き継がれた鉛筆の持ち方や箸の持ち方等の家庭との連携を進めるとともに、本部役員の協力を得てP T A運営委員会の機能を高めながら、会員の教育活動への参画意識を高め、持続可能な協力体制をつくる。
- (9) 小さな親切運動、挨拶運動推進校の活動の一貫として、「人と自分に一日一善」横断歩道で「ありがとう」感謝を伝える運動等も学府として推進し、小学校とのつながり、地域とのつながり、P T A活動、生徒会活動の活性化を図る。
- (10) 平和教育をはじめ、生活・交通・災害安全への意識高揚と危険予知・回避力を向上させる安全教育の充実を地域・保護者及び小学部とのつながりの中で進める。
- (11) 地域とともにある学校として、生徒の地域貢献活動への参加意識をより高めるとともに、いわた大祭りや裸祭り等地域行事との連携を系統的に整えて持続可能なものとする。
- (12) 部活動ガイドラインの確実な実施のため、保護者や地域への説明や職員の意識改革を進め、働き方改革につなげる。
- (13) 業務改善に短期・長期の区別意識をもち、見える化を図りながら具体的な成果を全体で確認する中で、教職員のやりがいと健康維持を促進する。
- (14) 新人事評価制度の完全実施を意識し、学校教育目標、重点目標、経営目標、そして、運営方針を受けたグループ目標を設定する等、目標の連鎖を行い、個人目標の設定から実践を組織の活性化につなげる。
- (15) 昨年度までに洗い出された本校の教育課題について期日を区切って協議を重ね、規律と規範、感動と気品を創り出す教育活動計画を早い段階から計画的に進める。

6 学校評価における数値目標（含：磐田市の目標指標）

■【生徒】■

- (1) 学校が楽しい。(市) (90%)
- (2) 授業の内容がよく分かる。(市・県) (85%)
- (3) 今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある。(市) (60%)
- (4) 進んで先生に聞いたり自分で調べたりして学習している。(市) (70%)
- (5) 学校に相談できる(信頼できる)先生や友人がいる。(市・県) (90%)
- (6) あいさつや返事がきちんとできる。(91%)
- (7) 授業で自分の意見や考えを、筋道を立てて発表している。(65%)
- (8) 城山中学校の生徒会活動(専門委員会、その他学級の係活動)に協力して取り組んでいる。(90%)
- (9) 城山中の生徒であることに誇りを感じている。(85%)

■【保護者】■

- (1) 城山中及びよつば学府が目指そうとしている子供の姿や教育内容について知っている。(80%)
- (2) 城山中の先生は、子供のことを理解して指導にあたっている。(85%)
- (3) 子供と日常的に会話をしている。(95%)

■【教師】■

- (1) 学府教育目標・目指す子供像を意識して指導をしている。(85%)
- (2) 学校経営目標を意識し、小中の接続、小小の連携を意識して教育活動を進めている。(75%)

7 勤務環境改善

- (1) ミライムによる出退勤状況及び部活動申請により、勤務実態の把握を管理職が確実にを行い、時間外勤務80時間(過労死ライン)までの時間の使い方を繰り返し指導し、勤務時間を意識したスケジュールを管理する力(段取り力)を高め、教職員の意識改革を進める。
- (2) 教職員自らが「働き方改革」のためにできることを考え、学年会や分掌部会で話し合う機会を設定し、職員会議や運営委員会で提案する場をつくり、一つでも実現できるように努める。
- (3) 部活動ガイドラインに沿った部活動の適切な運営を前期から進め、後期からはガイドラインを遵守し、教員の負担軽減を進める。
- (4) 個々の分掌業務において、「来年の今日をつくる」ことを呼びかけ、「再構築」と「発信」の経営スローガンのもと業務の進め、期日を区切り次年度の教育計画を働き方改革の視点をもって作成する。
- (5) コミュニティ・スクールやよつばプロジェクトを軸により発展させ、保護者・地域・外部機関、団体等との連携を深め、「チーム学校」(学校応援団)による、外部人材での校務補助を試行する。

8 めざす職員像（めざす職員集団）

※ 組織風土を醸成するために、城山スピリッツ（職員心得）をもって取り組む。

～ 城山スピリッツ（職員心得） ～

- 〈1〉 自己研鑽・自己管理に努め、明日の自分づくりに励みます。
- 〈2〉 子供の声や表れに寄り添い「心」をのせて指導します。
- 〈3〉 今日を、来年の今日につなげます。
- 〈4〉 5年後の教育を考えて、今を判断します。
- 〈5〉 チーム&ファミリーで、一人をみんなで支えます。